

◆ コスモエネルギーホールディングス（5021）

2017年度 第1四半期決算 アナリスト・投資家向け決算説明会 質疑応答

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。 －

1. 日時 : 2017年8月10日（木） 19:00 - 20:00
2. 出席者 : 60名
3. 主な質疑内容 :

<石油事業>

Q1：スポット市況と比較すると、コスモの-margin改善（前年同期比+2円弱）は強いが、背景について教えて欲しい。

A1：1Q（4-6月）は定修がなかったことや製油所トラブル解消などにより、前年同期比のコスト低減幅が、スポット市況比や同業他社比で大きく見えるかもしれない。

Q2：コスト低減が-margin改善に寄与していることか？

A2：その通り。製油所の高稼働や原油コスト低減が寄与。

Q3：7月、8月は1Q（4-6月）比で更に-marginが良くなっているように見えるが、コスモも業界並みに良くなると考えてよいか？

A3：7月、8月（8月10日時点）ともに1Q（4-6月）平均を上回っている。

Q4：通期計画には7月以降の石油製品-marginの上振れ影響を織り込んでいるか？

A4：期初計画を据え置いており、7月以降の-margin実績（上振れ）は織り込んでいない。

Q5：製油所の定修スケジュールについて教えて欲しい。定修影響は2Q（7-9月）に含まれるか？

A5：千葉製油所が9月末～11月初め、堺製油所の中間整備が8月末～10月初旬に定修予定。よって、CDベースの稼働率は1Q（4-6月）実績 99.9%と比較し、2Q（7-9月）計画は 86.6%を見込む。

Q6：プレゼンでの「高稼働で-margin改善」とはどういうことか？

A6：供給体制の再構築や原油の油種構成変化による原油調達コスト低減等が、-margin改善に寄与したということ。高稼働に伴う輸入・購入コスト減少の増益効果は、プレゼン資料（p.6）ステップチャートの石油事業の「その他」に含まれている。

Q7：昭和シェル石油グループとの事業提携の効果は？

A7：4月から事業提携を開始しており、昭和四日市石油様が定修だった5-6月を除けば、当初計画どおり、年間10億円シナジー相当の効果が出ている。

Q8：販売戦略（1 Q増販）について教えて欲しい。

A8：業界再編などによる特約店・SSの自社への系列回帰が進んだことが増販の主要因であるが、昨年度は製油所トラブルの影響で数量が凹んでいたことも1つの要因。

<石油化学事業>

Q9：丸善石油化学における増益の背景について教えて欲しい。

A9：定修スキップによる販売・輸出量の増加によるもの。

Q10：石油化学事業の今後の収益力は？通期を予想する上で1 Q（4－6月）実績83億円の4倍と考えていいか？

A10：単純に4倍にはならない。意図的ではないが、1 Qは期ズレなどで修繕費などの固定費が少なく計上される傾向がある。

<石油開発事業>

Q11：5月までは「生産開始は秋口」と公表していたと思うが、ヘイル油田開発の進捗について、教えて欲しい。

A11：計画通りに進捗している。生産開始時期がより具体的に見えてきたので、今回から「10月初め」と具体的に公表している。

Q12：ヘイルは生産開始後すぐに収益貢献するのか？

A12：4 Q（10－12月）から収益貢献する。また、年度中（～12月）にはフル生産に達する見込み。

<その他>

Q13：1 Q実績における計画比での上振れ（+約100億円）の詳細を教えて欲しい。

A13：石油事業で約6割、石油化学事業で約4割。石油事業は、マージンの上振れと製油所の高稼働、石油化学事業は、主にエチレン市況の上振れによる。

Q14：1 Q（4－6月）水準の利益が継続すると計画を大きく上振れるが、増配の可能性は？

A14：会社方針として財務体質の改善が優先であり、現状では配当は期初公表の50円から変更はない見込み。

Q15：1 Qの営業C/Fはどうか？

A15：税前当期純利益を計上する一方、仕入債務の減少などにより、営業C/Fは+40億円。

Q16：全セグメントにおいて、一過性の利益はあるか？

A16：特記すべきようなものはない。

以上

本書の記述及び記載された情報は、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から判断した見通しによるものです。このため、実際の業績は、様々な外部要因により、本書に記述および記載された情報とは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。